

第81回TRB年次総会／第9回ITS世界会議／ICTTS '2002報告

◆第81回TRB年次総会

第81回TRB年次総会(Transportation Research Board Annual Meeting)が2002年1月13日から1月17日までの5日間、ワシントンD.C.で開催されました。IBSからは交通研究室の牧村和彦が出席し、プローブカーを用いたパフォーマンス指標の分析手法について論文発表を行いました。総会には約8,000名が参加し、発表論文は約2,200、セッション数は500と例年同様非常に大規模な会議でした。筆者は恥ずかしながら初めての参加であり、論文投稿の手続き、論文審査の基準や査読者の対応、多彩な会議プログラム、会議の運営方法、参加者の意識の高さなど、全てが新鮮であり、驚きの連続であり、センセーショナルでした。

TRBは道路、公共交通、航空、海運と全ての交通分野を網羅し、学会という側面の他に行政的な課題についても発表や報告がなされています。プログラムが多彩ゆえ、参加者も大学、行政(国、州、MPO、自治体)、民間(コンサルタント、メーカー、ゼネコン)など様々でした。参加経験のない研究者は、ぜひ参加をお奨めします。TRB年次総会報告の詳細は、交通工学2002.No.2.Vol.37に報告していますので、ご興味のある方はこちらをご覧ください。

(交通研究室 牧村和彦)

◆第9回ITS世界会議

2002年10月14日～10月17日、アメリカ、シカゴのマコーミックプレイス・レイクサイドセンターにて第9回ITS世界会議が行われました。

今回の世界会議には、約4,400人の参加(中間集計報告より)がありました。IBSから交通研究室の牧村和彦、中嶋康博の2名が参加しました。

スペシャルセッションでは、モビリティマネジメントやインターネットITSが興味深く、ドイツが先導的に取り組んでいるモビリティマネジメントセンターは新たな交通情報のビジネスモデルとして注

目されており、わが国のTIC(トラフィック・インフォメーション・コンソーシアム)としても非常に参考となるモデルです。テクニカルセッションでは、プローブカーの過去情報やリアルタイム情報を用いた所要時間予測に関する論文が多く発表されていた印象を受けました。これからの旅行者情報のキラーコンテンツである予測情報を如何に利用者ニーズを反映し付加価値を付けていくかが重要であると感じました。

ITS世界会議は、私たちが専門としている交通計画分野以外にも機械・電気分野等異分野の方々の発表も多くあり、ITSの今後のビジネスモデルの動向を探る上で非常に有意義な会議です。

来年はスペインのマドリッド、再来年はいよいよ名古屋にて開催されます。ITSにご興味のある方は、是非とも参加してみてください。

(交通研究室 牧村和彦、中嶋康博)

◆ICTTS '2002 報告

2002年7月23日～7月25日の3日間、中国の桂林にて第3回交通運輸研究国際学術会議(The Third International Conference on Traffic & Transportation Studies:略称ICTTS '2002)が開催されました。IBSからは杉田浩、鈴木紀一、秋元伸裕、趙勝川、石川友保、矢部努の6名が参加し、3編の論文を発表しました。

杉田は土地利用政策が都市構造に与える影響についての論文を、趙はサンプルサイズや収集方法が交通行動モデルに与える影響についての論文を、矢部は横浜市で社会実験を行ったP&Cについての論文を発表し、活発な議論が行われました。

本会議は、1998年の北京における第1回会議以来、2年おきに開催されています。次回の第4回会議は、2004年7月に北京市内で開催される予定です。

(情報システム研究室 石川友保)